

ウルトラオリエンテーリング・松本城-善光寺 2015年5月9日 長野県松本市-長野市



スタートの国宝松本城公園。参加者全員で記念撮影。夜が明けたばかりの午前5時前。

1000年以上の歴史を持つ善光寺から新しいナビゲーションスポーツが生まれた。



フィニッシュは、長野市善光寺門前のセントラルスクウェア。長野オリンピックの表彰式会場だった場所だ。

## 善光寺御開帳記念

ウルトラオリエンテーリング・松本城-善光寺  
2015年5月9日 長野県松本市-長野市

### 結果

#### 男子

- 1位 丹沢 TR(2名) 6:15:26
- 2位 札幌農学校(2名) 8:22:20
- 3位 ROAD&TRAIL FK(2名) 9:40:41

#### 女子

- 1位 チーム行っとく?(2名) 9:24:45
- 2位 ピョトレ隊(2名) 10:13:15
- 3位 箱根シスターズ(2名) 10:43:04

#### 混合

- 1位 みんなが..(2名) 7:21:30
- 2位 ちーむとりけも(2名) 7:26:14
- 3位 チーム遠足(2名) 7:31:44

#### 男子ソロ

- 1位 中野茂暢 6:21:47
- 2位 福西佑紀 6:27:04
- 3位 鈴木 真 6:41:41

#### 女子ソロ

- 1位 町田はるか 7:36:16
- 2位 櫻 留美 8:29:53
- 3位 藤田志津代 8:43:38

## 長野県二大都市をつなぐ 60km

朝5:00に国宝・松本城をスタートし、制限時間12時間以内に60km離れた長野市の善光寺にフィニッシュする。途中に設けられた39箇所のコントロールをすべて通ることが完走の条件だ。指定されたコントロールは旧善光寺街道沿いの名所・旧跡。これを地図上で辿ることで旧善光寺街道をほぼ正確にトレースできる。

## ジャーニーランの新しい形

このイベントは旧善光寺街道を辿るジャーニーランが本質である。オリエンテーリングはジャーニーランを実現するための手段として使用した。鉄道の普及とともに100年前に役目を終えた善光寺街道は、現在は生活道路として、林道として、遊歩道として現在も利用されている。もはや道標もしっかりしておらず、これを正確に辿るには丁寧な誘導を行うしかない。そこで導入したのがポイントオリエンテーリングの競技形式である。

通過証明はデジタルカメラによる撮影によって行う。見どころのある街道を巡ってもらう方式としてこれより適した方法はない。

## 7年毎 700万人が善光寺詣で

早朝5:00に静かな松本城を出発した選手たちは、途中で標高1000mの峠を三つ越えてゆく。峠を降りてからは退屈で平坦な20kmのロード区間となる。そんな選手を待っているフィナーレが7年に一度の大縁日「善光寺御開帳」である。最後の1kmは善男善女で賑わう大縁日をくぐり抜け、善光寺手前の「セントラルスクウェア」にフィニッシュした。ここは1998年長野オリンピックの表彰式会場だった場所。60kmを駆け抜けたアスリートを迎えるのにこれ以上ふさわしい場所はない。

ここに作られた臨時ステージの上で表彰式が行われた。MCとギターの生演

奏を交え、巨大スクリーンも使ったド派手な表彰式だ。善光寺縁日の一連のステージイベントに表彰式を組み込んだ。



善光寺御開帳イベントステージを使った表彰式。通行人も多数見物。

## 大好評！

この大会をこっそりインターネットのエントリーサイトに発表したのが、開催5ヶ月前のクリスマス。募集定員の100名が埋まるかすら半信半疑であった。年があけたら改めて宣伝し周知活動を行うつもりだった。ところがインターネットの口コミであつという間にエントリーが集まり、エントリー開始からわずか10日、大会実施の5ヶ月前までにエントリーは満員御礼となった。

そして実際に競技が行われたあと、参加者の反応もすこぶる良かった。「7年に一度と言わず毎年やってほしい」という要望を多数いただいた。

## 変わった競技方法

今回のウルトラオリエンテーリングを実施するにあたって前例がない。そこでオリエンテーリングの競技規則を基本として新たに競技規則を作成した。

### 基本はチーム戦

長距離をナビゲーションだけで駆けるウルトラオリエンテーリング競技。安全確保のために基本はチーム戦である。この考えはロゲイニングやOMMと同じ。ただし今回は危険なフィールドや救出困難なフィールドが無いことから、ソロ参加も認めた。ただし参加料は割高になる。

### 交通ルールを守ることが条件

田舎の山道が主体とはいえ、市街地に来れば信号は多数ある。信号は守る、歩道を通る、などの交通ルールを守ることが条件にエントリーを受けつけ、これに従って実施した。これによりスタートからフィニッシュまで交通誘導なしで競技を実施することができた。

### 9枚の地図

60km ほぼ直線のコースを表現するには地図にも工夫が必要だった。A4サイズの地図を9枚利用し、地図の一部をオーバーラップさせることで表現した。国土院発行の1:25,000地図データを基に修正を加えて使用した。9枚の地図は5枚のポリ袋に裏表で封入されている。選手が手軽に利用できる地図を目指した。

### マスタート

スタートはマスタートである。基本はジャーニーランなのだ。当然、追走は発生するがそこは拘らなかつた。

### コースの途中に関門がある

コースの途中にエイドステーションが三ヶ所ある。そこで通過確認を行って規定時間に間に合わなかつた場合はそこで競技終了、車に回収されフィニ

ッシュまで強制輸送される。今回は出走89名のうち、関門でアウトになった人は3名だった。最終制限時間は12時間。歩いてフィニッシュにたどり着くことはできないが、ゆっくり走れば完走可能な設定である。

### GPSトラッキング

全チームにGPS端末を持っていただき、インターネットでライブ中継を行った。長距離ナビゲーション競技である以上、迷ってしまう可能性がある。このイベントに絡む関係者が誰しも心配するところだ。そんな心配を払拭するのがGPSトラッキングシステムである。迷ったチームを確実に発見・救出できるだろう。正直コレがなければ、松本市や長野市をイベントに巻き込むことは不可能だったと言える。

実際のイベント現場でも、最終ランナーがどこを通過しているのかが判ることがとても重要だった。GPSトラッキングのおかげでスムーズにイベント進行できた。

もちろんオリエンテーリングと名乗るには変則的であるが、ナビゲーションスポーツの新しい扉を開いた競技になったと感じている。

(木村佳司)

